

2018年（平成30年） 6月22日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

6/7~6/13のNYMEX・WTIは、65.74~66.64ドルの範囲で推移した。

6月14日は、22日のOPEC総会、23日のOPEC・非OPEC合同会議を控え、様子見ムードの中、ポジション調整の買いが入り、4日続伸した。サウジのファリハ・エネルギー相のOPEC会合では妥当かつ穏健な合意に達する見込みとの発言も市場に安心感を与えた。7月限の終値は前日比0.25ドル高の66.89ドルだった。

週末15日は、ノバク露エネルギー相がモスクワでのファリハ・サウジ・エネルギー相との会談後、OPECと非OPECは7月から段階的増産の可能性があるとロイターに発言し、大幅反落した。また、ペーカー・ヒューズ社発表の米国内石油掘削リグ稼働数が863基（前週比1基増）と4週連続の増加となった。7月限の終値は前日比1.83ドル安の65.06ドルだった。

週明け18日は、ドル安・ユーロ高による原油先物の割安感やポジション調整の買いが入り、反発した。一方で、16日、ノバク露エネルギー相は、本年7~9月期協調減産の日量150万バレル緩和を検討すると語った。7月限の終値は前日比0.79ドル高の65.85ドルだった。

19日は、前日の米国の中国製品に対する追加関税賦課の決定を受け、米中貿易戦争による世界経済の先行き不安や22日のOPEC総会・23日のOPEC・非OPEC合同会議における減産緩和観測から反落した。7月限の終値は前日比0.78ドル安の65.07ドルとなった。

20日は、EIAの米国在庫週報で、原油在庫が市場予想を上回る大きな取り崩しが報告されたこと、また、週末のOPEC関係会合における難航予想が伝えられたことから、反発し

た。7月限の終値は1.15ドル高の66.22ドルだった。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場（8月渡し）は、前週73.30~74.70ドルの範囲で推移した。6月14日74.30ドル、15日73.50ドル、18日70.80ドル、19日71.90ドル、20日72.80ドルで推移した。

為替は、前週109.41~110.48円の範囲で推移した。6月14日110.33円、15日110.68円、18日110.57円、19日110.15円、20日110.09円で推移した。

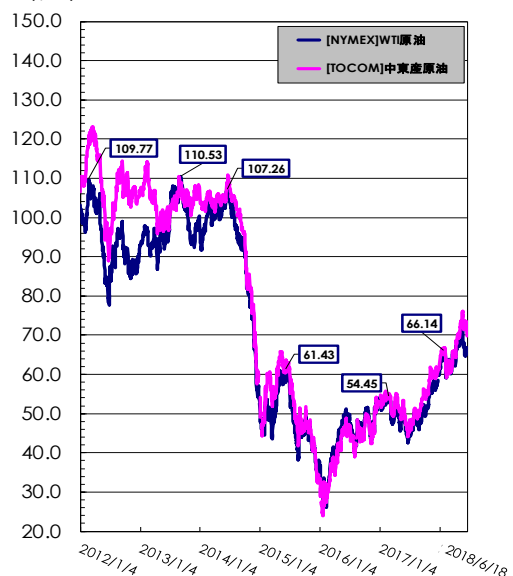
財務省が18日発表した貿易統計（速報・旬間ベース）によると、5月下旬の原油輸入平均CIF価格は、49,287円/klとなり、前旬を276円上回った。ドル建てでは71.44ドルで前旬比0.23ドル高。為替レートは1ドル/109.68円。また、同日発表した貿易統計（速報・月間ベース）によると、5月の原油輸入平均CIF価格は、48,455円/klとなり、前月を4,256円上回った。ドル建てでは70.61ドルで前月比4.47ドル高。為替レートは1ドル/109.10円。

主要元売会社の6月第4週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値下げに分かれた。原油価格は値下がりしたが、為替レートは円安で、原油調達コストはわずかに値下がりした。

そのような中で、6月18日時点の小売価格は、ガソリンが前週比横ばい、軽油も同横ばい、灯油は同1円の値上がり（18%ベース）だった。軽油は2週連続の横ばい、灯油は9週連続の値上がり（18%ベース）だった。この週（6月第3週）の原油コストはわずかに値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに据え置きとなった。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/10 ~ 6/16	2,803 ▼ -112	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	71.6 ▼ -2.8	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	6/16	12,788 ▼ -952	▼ -
価格	中東産原油 (TOCOM) (\$/bbl)	6/18	69.83 ▼ -3.78	▲ 23.8
	WTI原油 (NYMEX) (\$/bbl)	6/18	65.85 ▼ -0.25	▲ 21.7
	原油CIF単価 (\$/bbl)	5月下旬	71.44 ▲ 0.23	▲ 17.49
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	49,287 ▲ 276	▲ 11,445
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.68 ▼ -0.27	▲ 1.84
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/18	111.57 ▼ -1.16	▲ 0.46

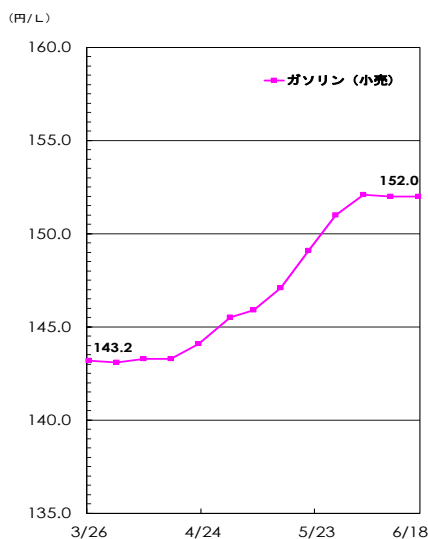
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/10 ~ 6/16	837 ▲ 4	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	852 ▼ -24	▼ -	
	輸出	"	0 ▼ -52	▼ -	
	在庫	6/16	1,743 ▼ -15	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/12 ~ 6/18	67.5 ➡ 0.0	▲ 19.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/12 ~ 6/18	63.6 ▼ -0.2	▲ 17.1
		(TOCOM/中部)	6/18	63.5 ▼ -0.5	▲ 17.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/18	152.0 ➡ 0.0	▲ 21.0	

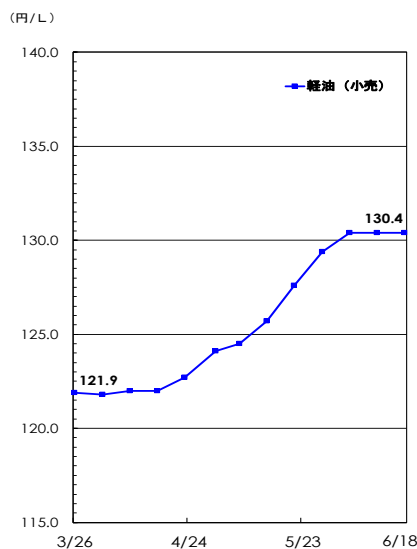
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

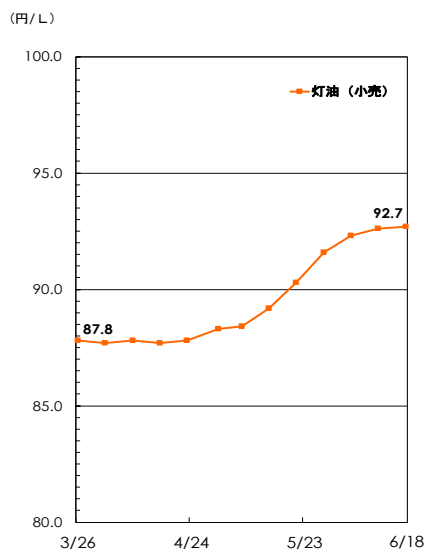
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/10 ~ 6/16	711 ▲ 14	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	608 ▼ -3	▲ -	
	輸出	"	97 ▲ 97	▼ -	
	在庫	6/16	1,562 ▲ 6	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/12 ~ 6/18	69.0 ▼ -0.1	▲ 22.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/12 ~ 6/18	68.5 ▼ -0.3	▲ 20.5
		(TOCOM/中部)	6/18	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/18	130.4 ➡ 0.0	▲ 20.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/10 ~ 6/16	107 ▲ 37	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	92 ▲ 30	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	▼ -	
	在庫	6/16	1,542 ▲ 15	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/12 ~ 6/18	67.8 ▼ -0.1	▲ 22.4	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/12 ~ 6/18	67.1 ▲ 0.4	▲ 22.8
		(TOCOM/中部)	6/18	66.0 ▼ -0.5	▲ 21.4
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/18	92.7 ▲ 0.1	▲ 16.1	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月20日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、国内原油在庫が前週比590万バレル減と市場予想(同190万バレル減)を上回る大きな取り崩しがあったこと、また、週末に予定されるOPEC関連会合にむけて、サウジが一部湾岸諸国との減産緩和の調整に難航していると伝えられたことから、反発した。しかし、EIA在庫報告で、ガソリン在庫は330万バレル増、中間溜分在庫も270万バレル増と、夏の需要期を目前に、市場予想を大幅に上回る積み増しがあり、上値を抑える形となった7月限の終値は前日比1.15ドル高の66.22ドル、8月限の終値は前日比0.81ドル高の65.71ドルだった。

EIAによると、6月18日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.2セント値下がり1ガロン2.879ドル(84.8円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比2.2セント値下がり3.244ドル(95.5円/ℓ)。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルも3週連続の値下がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年6月10日～6月16日に休止したトッパー能力は79.1万バレル/日で、前週に対して10.6万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は280.3万klと、前週に比べ11.2万kl減少。前年に対しては28.1万klの減少。トッパー稼働率は71.6%と前週に対して2.8ポイントの減少、前年に対しては7.2ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/0.5%増、ジェット/5.1%減、灯油/52.0%増、軽油/2.0%増、A重油/14.2%減、C重油/3.2%減。今週のC重油の輸入は0.5万kl(前週比7.8万kl減)。軽油の輸出は9.7万kl(前週比9.7万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では灯油、A重油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比では灯油、軽油、A重油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は85.2万kl(対前週2.7%減)と前週比で2週振り減少となり、12週連続で100万klを下

回った。

ジェット7.4万kl(対前週34.0%減)、灯油9.2万kl(対前週49.4%増)、軽油60.8万kl(対前週0.5%減)、A重油18.7万kl(対前週5.8%増)、C重油16.1万kl(対前週2.4%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/10 ~ 6/16)	前週 (6/3 ~ 6/9)	前週比	
ガソリン	852	876	▼ -24	(-3%)
ジェット燃料	74	111	▼ -37	(-33%)
灯油	92	62	▲ 30	(48%)
軽油	608	611	▼ -3	(-0%)
A重油	187	176	▲ 11	(6%)
C重油	161	157	▲ 4	(3%)
合計	1,974	1,993	▼ -19	(-1%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月16日時点の在庫は、ガソリン、ジェット、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、灯油、軽油、C重油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは174.3万kl、前週差1.5万kl減。前年に対しては14.8万kl少ない。

灯油は154.2万kl、前週差1.5万kl増。前年に対しては6.2万kl多い。

軽油は156.2万kl、前週差0.6万kl増。前年に対しては10.7万kl多い。

A重油は74.7万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては5.5万kl少ない。

C重油は219.8万kl、前週差2.5万kl増。前年に対しては12.9万kl多い。

(単位:千KL)

	今週 (6/16)	前週 (6/9)	前週比	
ガソリン	1,743	1,758	▼ -15	(-1%)
ジェット燃料	983	1,041	▼ -58	(-6%)
灯油	1,542	1,527	▲ 15	(1%)
軽油	1,562	1,556	▲ 6	(0%)
A重油	747	775	▼ -28	(-4%)
C重油	2,198	2,173	▲ 25	(1%)
合計	8,775	8,830	▼ -55	(-0.6%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月12日から6月18日の原油価格は前週対比で値下がりしたが、為替レートは円安で、原油コストはわずかに値下がりましたと見られる。

陸上スポット価格は、6月12日から6月18日までの間、ガソリン121円台でわずかに値上がり、軽油68～69円台でほぼ横ばい、灯油67円台でやや値上がり後横ばいで推移した。

海上スポット価格は、同期間でガソリン121～122円台で

やや値下がり後上昇、軽油68～69円台でほぼ横ばい後値下がり、灯油66～68円台でほぼ横ばい後大きく値下がりに推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン116～118円台で値上がり後大きく値下がり、軽油68円台で横ばい、灯油65～67円台でほぼ横ばい後大きく値下がりに推移した。元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値下がりに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、陸上のガソリンが横ばい、海上・先物の灯油が値上がりした以外は各取引で値下がりがしたが、値動きはいずれも小幅だった。

6月第4週(6月21日～6月27日)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6月12日～6月18日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは横ばい、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.1円の値下がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが0.6円の値下がり、灯油は0.5円の値上がり、軽油は0.5円の値下がりがだった。先物価格は、ガソリンが0.2円の値下がり、灯油は0.4円の値上がり、軽油は0.3円の値下がりがだった。原油価格はやや値下がりがしたが、為替は円安で、原油コストはわずかに値下がりがした。

6月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、据え置きと0.5円の値下がりに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/ℓ)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (6/12～6/18)	前週 (6/5～6/11)	前週比
レギュラー	67.5	67.5	➡ 0.0
灯油	67.8	67.9	▼ -0.1
軽油	69.0	69.1	▼ -0.1

(TOCOM) (単位: 円/ℓ)

[期近物/終値][平均]	今週 (6/12～6/18)	前週 (6/5～6/11)	前週比
レギュラー	63.6	63.8	▼ -0.2
灯油	67.1	66.7	▲ 0.4
軽油	68.5	68.8	▼ -0.3

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/12～6/18実績値) (単位: 円/ℓ)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	➡ 0.0	▼ -0.2	▼ -0.1
灯油	▼ -0.1	▲ 0.4	▲ 0.2
軽油	▼ -0.1	▼ -0.3	▼ -0.2
A重油	▼ -0.3		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上/バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月18時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比横ばいの152.0円、軽油も同横ばいの130.4円、灯油は同0.1円高の92.7円(18ℓベースでは同1円高の1,668円)だった。軽油は2週連続の横ばい、灯油は9週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは11都県、横ばい12道県、値下がり24府県だった。横ばいは、北海道ほか11県だった。全国最安値は徳島県の144.7円(同横ばい)、次が埼玉県の147.8円(同0.1円安)、最高値は長崎県の160.9円(同横ばい)だった。最も値上がりしたのは、0.6円高の石川県(150.1円)、最も値下がりがしたのは、0.8円安の青森県(150.9円)だった。

(単位: 円/ℓ)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/18)	前週 (6/11)	前週比	直近高値
レギュラー	152.0	152.0	➡ 0.0	08/8/4 185.1
灯油	92.7	92.6	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	130.4	130.4	➡ 0.0	08/8/4 167.4

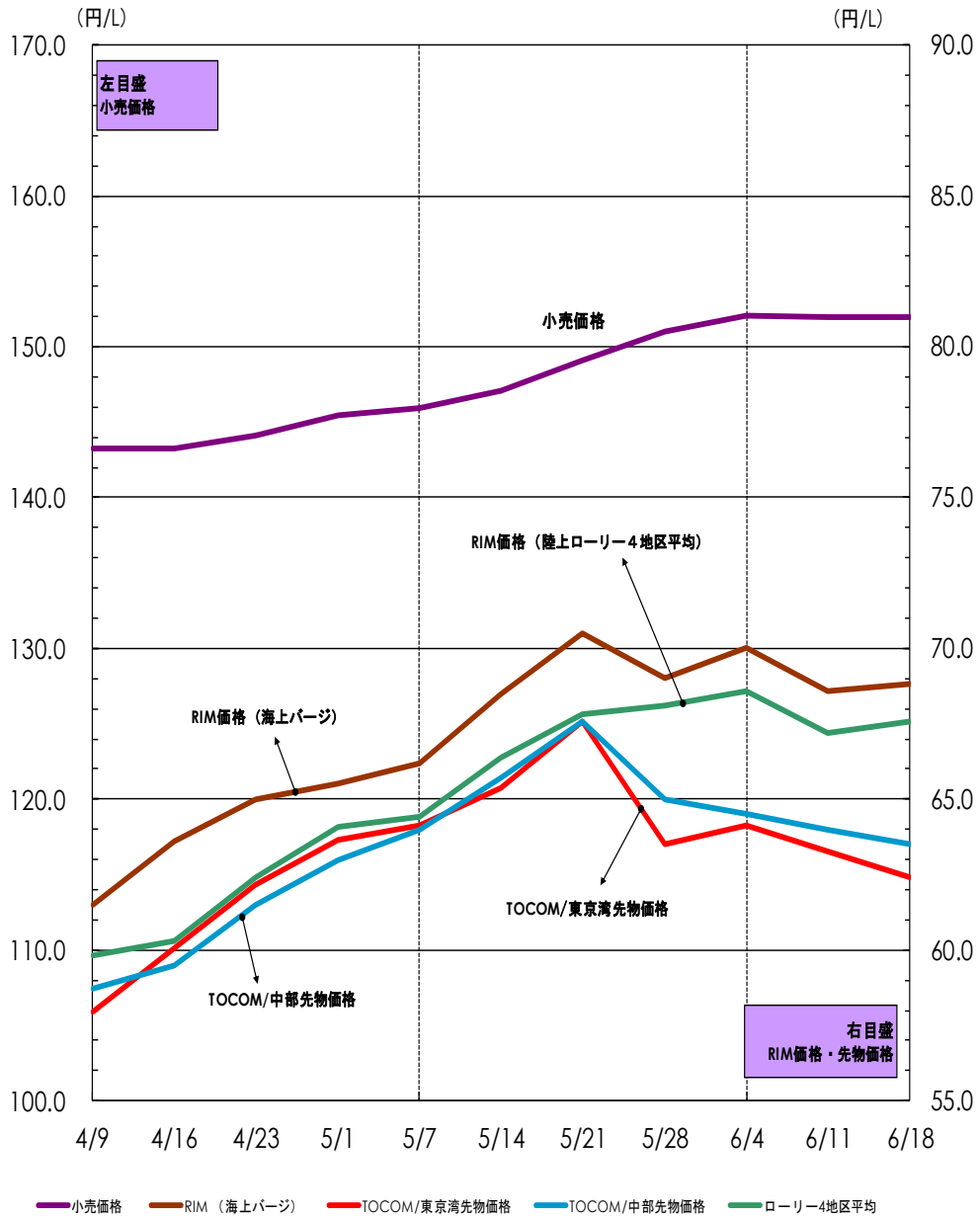
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/4/9 ~ 2018/6/18)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第12号)の公表は、6/29(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。
当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。
また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。
当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。
「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。
中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」
中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。
原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。
TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。